

強制収用反対！市東さんの農地を守ろう

7/12 天神峰櫛の木まつりへ



第2回・天神峰櫛の木まつりに先立ち、市東さん南台農地に集まり〈上〉デモ出発〈下〉(2018年7月8日)

成田空港の機能強化策（第3滑走路建設・運用時間延長・B滑走路の延伸）も、成田市天神峰の市東孝雄さんの農地取り上げもまったく必要ありません。直ちに撤回されなければなりません。

新型コロナウイルスの感染拡大によって、空港機能強化の前提とされてきた「右肩上がりの航空需要」にもとづく「観光立国」は「神話」に過ぎなかったことがはっきりしました。

6月に入ってから航空機の減便・欠航が相次いでいます。航空会社の経営破産、空港関連で働く労働者への一時帰休やリストラ、空港内店舗の時短営業・休業も続いています。B滑走路やターミナル閉鎖解除のめどすらついていません。成田空港会社（NAA）自身が税金による救済がなければ破産しかねない状況です。

私たちは7月12日、市東さんの農地強奪強制執行反対！ 空港機能強化白紙撤回に向け、天神峰櫛の木まつりを開催します。ぜひお集まり下さい。

第3回・天神峰櫛の木まつり

7月12日（日）12時30分～ 市東さんの南台農地集合

13時～デモ出発

13時30分～交流会

※飲食についてはありません。

市東さんの農地取り上げ強制執行を許さない 裁判闘争へのご支援をよろしくお願いします

●請求異議裁判

NAAによる市東さんの農地取り上げ強制執行の不許可を求める裁判です。「二度と強制執行は行わない」と社会的に宣言したNAAによる農地取り上げは許されません。成田空港のB滑走路は今だ閉鎖されたまま。再開のめどもたっていません。NAAが市東さんの農地を奪う根拠も必要性も一切ありません。「市東さんの農地取り上げ強制執行を許さない」東京高裁への要望書にさらなるご協力をよろしくお願いします。裁判は8月下旬の予定です。

●団結街道裁判

成田市が市東さん宅と畑をつなぐ市道（通称：団結街道）を違法に封鎖したことに対して、決定の無効と妨害物の撤去を求めている裁判です。

この裁判では、廃道を決定した小泉一成成田市長と片山敏宏副市長（当時）の証人尋問が不可欠です。しかし、千葉地裁・内野俊夫裁判長は証人採用をしようとしていません。小泉市長の「政治判断」で市東さんはじめ多くの地域住民が使用していた市道が奪われ、生活・営農が破壊されています。何としても小泉市長を法廷に引きずり出し、責任を取らせなければなりません。

●新やぐら裁判

成田空港会社（NAA）が反対同盟に、成田市天神峰の市東さんの畑に建っているやぐらや大看板など4つの工作物の撤去を求めている裁判です。

NAAが明け渡しを求めている工作物が建っている畑は市東さんが3代にわたって耕してきた農地です。市東さんの同意のないまま地主から取得したとNAAは主張していますが、耕作者の同意のない農地の売買は違法であり無効です。

東京高裁に異動となった内田博久裁判長を「職務代行裁判官」として千葉地裁に來させて次回の裁判を強行しようとしています。断じて許されません。ぜひ千葉地裁に駆けつけてください。

団結街道裁判

6月26日（金） 10時30分～ 千葉地裁

新やぐら裁判

7月16日（木） 13時30分～ 千葉地裁

航空会社の相次ぐ破産 観光客は二度と戻らない

第3滑走路計画の白紙撤回を

●4月の訪日外国人は99.9%減

5月28日、NAAの田村明比古社長は、定例の記者会見で4月の国際旅客数は前年同月比で98%減。国内旅客数も88%減で、4月の成田空港利用者数は開港以来最低の14万1412人であったと発表しました。

4月の訪日外国人は前年同月比99.9%減のわずか2900人でほぼ鎖国状態です。安倍政権が掲げる観光立国の柱として期待されていた中国からの入国者はわずか200人です。観光立国は砂上の楼閣であったことがはっきりしました。

●相次ぐ航空会社の破産

日米欧などの世界の主要航空会社40社の2020年1～3月期決算は、最終損益が2兆円を越す過去最大の赤字となりました。新型コロナウイルスの感染拡大の影響が深刻になり始めたのは2月末頃であり、4～6月期のさらなる悪化は不可避です。

すでに、航空会社の経営破たんが始まっています。3月5日にイギリスのフライビーが破産申請、4月21日には、オーストラリア第2位の航空会社であるオーストラリア・ヴァージン航空が破たん。5月19日にはタイ国際航空が、5月26日には中南米最大手のLATAM（ラタム）航空が経営破たんしています。

国内においても、政府による異例の巨額の融資（税金投入）がなければANAもJALも破産は必至です。



●LCC誘致政策が破たん

羽田に国際空港の地位を奪われた成田はLCC専用ターミナルを整備するなどしてLCCの誘致で生き延びようという路線をとっています。

しかし、LCC利用者のほとんどが観光目的であり、搭乗率が8割を超えなければ収益が上がらないと言われる中で展望はまったくありません。

●観光客は二度と戻らない

新型コロナウイルスをはじめ感染症と人類の共存は未来永劫続きます。同時に、都市封鎖などによる世界経済の収縮もはじまっています。さらなる恐慌へと突き進むことは避けられません。

観光客数が再び以前の水準に戻ることはありません。機能強化の白紙撤回こそが私たちの未来を守る道です。

地域住民の声

今回は茨城県稲敷市の住民の声を紹介します。実際の騒音と公表されている騒音の値が異なっていることについてNAAや行政がデタラメな対応を取っていることは絶対に許されません。

◆騒音コンターと実際の騒音の値が全く違っている。いい加減な対応は許せない。

稲敷市 会社員（男性）

2年半前に騒音コンターを引くための根拠や計算式について教えてほしいとNAAに問い合わせをしたがまったく回答がない。

現在、B滑走路が閉鎖されているが、稲敷市の騒音の大きさはほとんど変わっていない。この地域は航空機が旋回する場所でもあるため、片方のエ

ンジン緩め、もう片方を強めるということをやっている公表されている騒音の値と実態がかけ離れている。特に、航空機の真下に入ると第一種騒音区域よりも騒音被害は大きいと言える。

机上の計算で図面の上で引かれた騒音コンターでは被害の実態は分からない。ちゃんとした現地調査をやるべきだ。

行政に「騒音の値についてごまかしているのでは」と聞くと、「自動で表示されているので騒音値の変更はできない」と言い、また別のときに聞くと「セミの音などでの修正はある」と言っていた。まったく信頼できない。

さらに、成田市では法律を超えて対策が取られてれているが、稲敷市では法律をたてにして、同じ騒音被害でも対策がとられない。

実態について調査もせず、数値もごまかす。こんな状況でどうして空港の機能強化を受け入れることができるだろうか。今回の空港機能強化策は撤回するほかないと思う。

全世界で黒人男性虐殺への抗議デモが拡大 “黒人の命は重要だ (BLACK LIVES MATTER)”

米ミネソタ州で黒人男性のジョージ・フロイドさんが警察官に虐殺された事件への抗議行動が全米・全世界で巻き起こっています。「黒人の命は重要だ」をスローガンにした行動は、社会的弱者への差別・抑圧を前提にした社会のあり方を根本から問い、変革する闘いへと発展しています。連帯し、共に声を上げましょう。



米ニューヨーク・マンハッタン（6月2日）